

住吉祭

毎年 7 月 30 日から 8 月 1 日にかけて行われる大阪最大級の夏まつりである住吉祭は、疫病や災いを防ぐための清めの神事が行われることから、「お祓」とも呼ばれている。祭りが始まる前に、神社の神様を運ぶための神輿を清める。神輿を清めるための水は、早朝に大阪湾から汲んでくる。

7 月 30 日の午後 8 時には、神々を神輿に移す「宵宮祭」が行われる。翌日には「夏越の祓え神事」が行われる。夏越の祓え神事は、室町時代(1336-1573)の色鮮やかな衣装を身にまとった巫女や子供、踊り子などの行列で構成されており、大きな茅の輪をくぐり抜けることで、身が清められるというものである。

「神輿渡御」は、8 月 1 日に行われる。神輿が、急勾配の反橋を渡り、大和川を渡って堺市の宿院頓宮まで運ばれ、再び住吉大社に戻ってくる。重さ約 2 トン、長さ約 11 メートルの本神輿を担ぐのは大変なことである。